

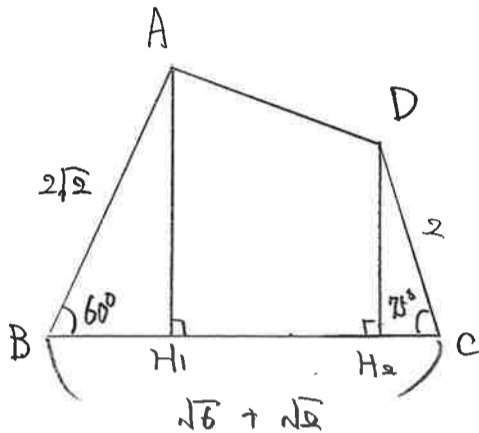
志望学部	受験番号
地域学部	番

数 学

平成 27 年度入学者選抜学力検査解答用紙(前期日程)

I・II・A・B

(I)



$\sin 75^\circ$  と  $\cos 75^\circ$  を加法定理を用いて求める。

$$\begin{aligned} \sin 75^\circ &= \sin(45^\circ + 30^\circ) \\ &= \sin 45^\circ \cos 30^\circ + \cos 45^\circ \sin 30^\circ \\ &= \frac{\sqrt{2}}{2} \times \frac{\sqrt{3}}{2} + \frac{\sqrt{2}}{2} \times \frac{1}{2} \\ \sin 75^\circ &= \frac{\sqrt{6} + \sqrt{2}}{4} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \cos 75^\circ &= \cos(45^\circ + 30^\circ) \\ &= \cos 45^\circ \cos 30^\circ - \sin 45^\circ \sin 30^\circ \\ \cos 75^\circ &= \frac{\sqrt{6} - \sqrt{2}}{4} \end{aligned}$$

点 A, D から線分 BC に垂線を下す。その足を  $H_1, H_2$  とおく。

$$\begin{aligned} AH_1 &= 2\sqrt{2} \sin 60^\circ = \sqrt{6}, & BH_1 &= 2\sqrt{2} \cos 60^\circ = \sqrt{2} \\ DH_2 &= 2 \sin 75^\circ = \frac{\sqrt{6} + \sqrt{2}}{2}, & CH_2 &= 2 \cos 75^\circ = \frac{\sqrt{6} - \sqrt{2}}{2} \quad \text{「75°」} \end{aligned}$$

$$H_1H_2 = (\sqrt{6} + \sqrt{2}) - \sqrt{2} - \frac{\sqrt{6} - \sqrt{2}}{2} = \frac{\sqrt{6} + \sqrt{2}}{2}$$

したがって、求める四角形の面積を  $S$  とおくと

$$\begin{aligned} S &= \frac{1}{2} \times \sqrt{2} \times \sqrt{6} + \frac{1}{2} \times \left( \sqrt{6} + \frac{\sqrt{6} + \sqrt{2}}{2} \right) \times \frac{\sqrt{6} + \sqrt{2}}{2} + \frac{1}{2} \times \frac{\sqrt{6} - \sqrt{2}}{2} \times \frac{\sqrt{6} + \sqrt{2}}{2} \\ &= \sqrt{3} + \frac{8\sqrt{3} + 20}{8} + \frac{1}{2} \end{aligned}$$

$$\underline{\underline{S = 2\sqrt{3} + 3}} \quad \dots \text{(答)}$$

得点

(4の1)

志望学部	受験番号
地域学部	番

数 学

平成 27 年度入学者選抜学力検査解答用紙(前期日程)

I・II・A・B

〔II〕

(1) 1の位は2,4の2通り、他の4桁はそれぞれ4通り

$$\therefore 2 \times 4^4 = 512 \dots \underline{\underline{512}} \text{ (答)}$$

(2) 各位の和が9の倍数となる5桁の数の組合せは

11124, 11133, 11223, 12222, 24444, 33444 があ

とそれぞれを並べかえを考えると、求める個数は

$$\frac{5!}{3!} + \frac{5!}{3!2!} + \frac{5!}{2!2!} + \frac{5!}{4!} + \frac{5!}{4!} + \frac{5!}{2!3!}$$

$$= \underline{\underline{80}} \dots \text{(答)}$$

(3) (i) 万の位が2, 千の位が2,3,4 となるものは  $3 \times 4^3$

(ii) 万の位が3,4 となるものは  $2 \times 4^4$

$$(i)(ii) \text{ 并) } 3 \times 4^3 + 2 \times 4^4 = \underline{\underline{704}} \dots \text{(答)}$$

得点	
----	--

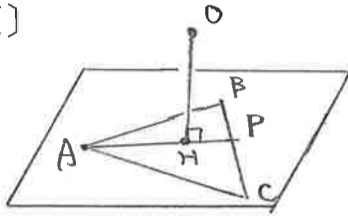
志望学部	受験番号
地域学部	番

数 学

平成 27 年度入学者選抜学力検査解答用紙(前期日程)

I・II・A・B

(III)



(1)  $\vec{AB} = (-1, 2, 0), \vec{AC} = (-1, 1, 2)$

点Hは  $\vec{AB}$  と  $\vec{AC}$  でつくられる平面上にあるので、実数  $x, y$  を用いて、平面上の点は

$\vec{AH} = x\vec{AB} + y\vec{AC}$  と表すことができる。

$\vec{AH} = (-x, 2x, 0) + (-y, y, 2y) = (-x-y, 2x+y, 2y)$

$\vec{OH} = (2-x-y, 2x+y, 2y)$

$\vec{OH} \perp \vec{AB}$  より  $-2+x+y+4x+2y=0$   
 $5x+3y=2$  — ①

$\vec{OH} \perp \vec{AC}$  より  $-2+x+y+2x+y+4y=0$   
 $3x+6y=2$  — ②

①, ② より  $x = \frac{2}{7}, y = \frac{4}{21}$

したがって、 $\vec{AH} = \frac{2}{7}\vec{AB} + \frac{4}{21}\vec{AC}$  — ④ と表せる。

$\vec{OH} - \vec{OA} = \frac{2}{7}(\vec{OB} - \vec{OA}) + \frac{4}{21}(\vec{OC} - \vec{OA})$

$\vec{OH} = \frac{11}{21}\vec{OA} + \frac{2}{7}\vec{OB} + \frac{4}{21}\vec{OC}$  と判る

$s = \frac{11}{21}, t = \frac{2}{7}, u = \frac{4}{21}$  ... (答)

(2) ④ より  $\vec{AH} = \frac{6\vec{AB}+4\vec{AC}}{21} = \frac{10}{21} \times \frac{3\vec{AB}+2\vec{AC}}{5}$

したがって、点Pは線分BCを2:3に内分するので、 $BP:PC=2:3$  ... (答)

(3)  $\vec{AP} = \frac{3\vec{AB}+2\vec{AC}}{5}$  であるので、成分を用いて表すと

$\vec{AP} = \frac{1}{5} \{ (-3, 6, 0) + (-2, 2, 4) \} = \frac{1}{5} (-5, 8, 4)$

したがって、

$|\vec{AP}| = \frac{1}{5} \sqrt{25+64+16}$

$|\vec{AP}| = \frac{\sqrt{105}}{5}$  ... (答)

得点	
----	--

志望学部	受験番号
地域学部	番

数 学

平成 27 年度入学者選抜学力検査解答用紙(前期日程)

I・II・A・B

(IV) (1)  $5! + 4! + 3! = 120 + 24 + 6 = \underline{150}$  ... (答)

(2)  $a! + 2 = 2^n$  ( $n \geq 4$ ) と仮定す。

$a! = 2^n - 2 = 2^1 \cdot (2^{n-1} - 1)$   
 $n \geq 4$  で  $2^{n-1} - 1$  は奇数であるから、 $a \geq 4$  より  $a!$  は少なくとも 3 個の 2 を含むが、右辺は 2 が 1 個しか含まれないので矛盾。  
 したがって、 $a! + 2$  は 2 の累乗とはなり得ない。

(3)  $\frac{a!}{2} + 4 = 2^m$  ( $m \geq 6$ ) と仮定す。

$a! = 2 \times (2^m - 4) = 2^3 \times (2^{m-2} - 1)$   
 $m \geq 6$  で  $2^{m-2} - 1$  は奇数であるから、 $a \geq 6$  より  $a!$  は少なくとも 4 個の 2 を含むが、右辺は 2 が 3 個しか含まれないので矛盾。  
 したがって、 $\frac{a!}{2} + 4$  は 2 の累乗とはなり得ない。

- (4)
- (i)  $c \geq 3$  のとき  $a \geq b \geq c$  かつ  
 $a! + b! + c!$  は 3 の倍数であるので  
 2 の累乗とはなり得ない
- (ii)  $c = 1$  のとき  
 $a! + b! + 1$  が 2 の累乗を表すとき  
 $a! + b!$  は奇数でなくてはならない。  
 $a = 1$  のとき  $1! + 1! + 1! = 3$  かつ  
 不適なので  $a \geq 2$ 。  
 $a \geq b$  とき  $a! + b!$  は奇数なので  
 $b! = 1$   
 したがって、 $a! + b! + c! = a! + 2$   
 と表す。(2) の  $a \geq 4$  は不適  
 であるので、 $a = 2, 3$ 。  
 このとき、題意をみたす。
- (iii)  $c = 2$  のとき  $a \geq b \geq 2$   
 $a! + b! + 2 = 2^n$  と表すとす。  
 $\frac{a!}{2} + \frac{b!}{2} + 1 = 2^{n-1}$  とす。  
 (ii) と同様に考えて。

$\frac{b!}{2}$  は奇数とならぬ、 $\frac{b!}{2} = 1, 3$  より  $b = 2, 3$ 。

②  $b = 2$  のとき  $a! + b! + c! = a! + 3$   
 $a \geq 2$  のとき  $a!$  が偶数となるが不適

①  $b = 3$  のとき  
 $a! + b! + c! = a! + 8 = 2 \left( \frac{a!}{2} + 4 \right)$   
 (3) の  $a \geq 6$  は不適なので  
 $a = 3, 4, 5$   
 このうち、 $2^n$  と等しいのは  $a = 4, 5$   
 以上より、求める  $(a, b, c)$  は  
 $(a, b, c) = (2, 1, 1), (3, 1, 1),$   
 $(4, 3, 2), (5, 3, 2) \dots$  (答)

得点